

## 発音の問題とその治療

磯 野 信 策

新潟医療福祉大学 医療技術学部言語聴覚学科

### Articulation disorders and treatment

Shinsaku Isono

Department of Speech Therapy, School of Health Sciences, Niigata University of Health and Welfare

#### 要旨

幼小児にしばしばみられる言語障害の一つに構音障害がある。これは、ある特定の音韻を誤って発音する状態を言うが、問題は子どもが言っていることが分からないという一次的な問題に留まらず、子どもの人格形成にまで影響を及ぼしかねない二次的な問題を派生させることである。早期に発見して適切な治療を行えば完治させることが可能であり、二次的な問題も回避できる。今回は、構音障害の状態と原因、治療法について記述する。

キーワード：構音障害、二次的な問題、構音障害治療

Keywords: articulation disorders, secondary problems, treatment

#### 1. はじめに

2, 3歳の子どもが猿を見て「おちやるちゃん（おさるさん）」と言っても誰もおかしいとは思わず、普通のことと認識する。しかし、5歳、6歳になっても薩摩芋を「たとうまいも」などと発音していると奇妙に感じる。

ある年齢を過ぎても発音が正確でなく、聞き手に違和感を与え、ひいてはコミュニケーション上で不都合が生じる場合には、言語病理学ではこれを構音障害という。

#### 2. 構音障害

構音障害とはある特定の語音を正しく構音することができず、ある程度以上の一貫性をもって他の音に変化してしまう状態をいい、そのタイプは以下の3型に分類することができる。

- 1) 置換：カ行音がタ行音に置き換わるなど、他の日本語語音に置き換えられる場合。
- 2) 省略：子音が省略されて母音のみになる場合（音声学では、例えば“カ”の音は子音とは呼ばず、/ka/と音声表記して/k/の部分のみを子音という。国語学でいうところの日本語子音は音声学的には子音 consonant と母音 vowel が結合した音で、いわゆる CV 構造を形成している）。
- 3) 歪み：一般的な日本語語音では使用されない音に置き換えられる場合。呼気を鼻に抜く鼻咽腔構音、呼気が側方に向かって流出する側音化構音、前舌を使用する音で奥舌を使う口蓋化構音、喉を詰めた母音のように聞こえる声門破裂音、歯間から舌が突出する歯間音化構音等々、特別な名称が付けられている音もある。

構音障害は幼児期ないし小児期に生起する問題であり、適切に治療されなければ成人に到っても残存することがある。小児における言語聴覚障害の発現率は5%とされ、構音障害はそのうちの60%、全体では3%の発現率があると言われており、この数

値は筆者の臨床経験からみて妥当なものと感じている（表1）<sup>1)</sup>。

表1. こどもの言語障害の発現頻度

障害の内容	%
構音障害	3.0
どもり	0.7
声の異常	0.2
口蓋裂	0.1
脳性まひ	0.2
言語発達遅滞	0.3
聴覚障害（ことばの障害を伴うもの）	0.5
計	5.0

（田口恒夫：言語障害治療学。医学書院，1966）<sup>1)</sup>

### 3. 構音障害の原因

構音障害の原因は多岐にわたるものの大別すると以下ようになる。

- 1) 口腔内疾患
- 2) 神経系の疾患
- 3) 難聴（幼少の一時期だけの難聴も含む）
- 4) 原因不明（発音の問題だけで上記の問題がないもの）

なお、ことばの発達が全体的に遅れると発音の問題も生じるが、この場合には構音障害とは診断しない。

口腔内疾患の場合では口腔器官の形態的あるいは機能的異常に基づくもので、前者では器質性構音障害と分類される。神経系疾患の場合では中枢神経系の疾患に基づくもので、運動障害性構音障害と分類される。子どもの構音障害としては原因不明が最も多い。

ここでは、子どもに多い口腔内疾患による場合と原因不明の場合について説明する。なお、最近では用語の混乱を訂正する意味からこれら二つを音韻障害 phonological disorder と呼び、2) に起因する場合の運動性構音障害と区別するようになってきている。

構音障害を引き起こす口腔疾患としては唇顎口蓋裂と粘膜下口蓋裂がよく知られている。これは、鼻咽腔閉鎖機能不全によって口腔内圧を高めることができないために舌の構音操作が習得できず、代償性の構音を獲得してしまったものである。その他には、不正咬合によって生じるもの、歯の欠損や舌小帯強直症、腫瘍などがある。

原因疾患が明らかでないものでは、正しい音と誤った音を聞き分ける聴覚的弁別力が不足している

もの、発音動作の習得が遅れたもの、言語能力全体の軽い、あるいは、一時的な遅れがあったものなどの言語心理学的原因が考えられている。

### 4. 構音障害によって生じる諸問題

発音が不正であるために言っていることが伝わらない、誤解されるなどの問題は一次的な問題である。これ自体、話し手側の子どもにとっては重大な問題であるが、さらに、これらの経験を通して挫折感や自信喪失感を持たせることに繋がりがかねない。こうした負の感情の繰り返し経験は健全な人格形成に悪影響を与えかねず、一次的問題から派生する二次的な問題は決して看過できることではない。

他人から何らかの病気－脳の病気とか、精神発達の遅れを疑われることも少ないことではない。また、子ども本人ばかりではなく、舅姑や周囲の人々から親の不適切な養育態度を疑われ、トラブルになる場合さえあり、問題は本人と家族だけに留まらない。

### 5. 診断と治療

構音障害の診断は、構音を弁別する訓練を受けた言語聴覚士が検査を行って診断する。症状を分析することによって、構音障害の原因疾患をかなりの程度で推定することもでき、疾患が疑われる場合には適当な診療科に診察を依頼する。なお、治療なしで自然治癒することもあり、諸検査によってこれを予測することもできる。

構音障害の原因として医学的に治療可能な病気がある場合にはこの治療を優先し、その後、言語聴覚士が治療プログラムに基づいて言語治療を実施することになる。

構音障害の治療は子どもの言語発達年齢が4歳に達したのちに開始される。この理由としては、構音が発達して90%の完成をみるのが4歳過ぎであることから（表2）<sup>2)</sup>、構音障害の診断はこの時期以降に行われることのほか、治療に必要な語音記憶力と音節分解能力が形成されるのが4歳頃になることにもよる。

治療は、正しい音と誤っている音を聴覚的に弁別する能力を伸ばす訓練と、正しい構音を学習する構音訓練を互いにリンクさせながら、厳密な訓練プログラムに従って実施する。治療によって多くは完治させることができる。

表 2. 構音の完成時期

年齢	完成する音韻
～2歳児	マ行, タ行, カ行
3歳児	ハ行, ガ行, ヒヤ行
4歳児	ジャ行, シャ行, ラ行, サ行, ザ行
5歳児	ツ

※通過率は80%とした  
(山本, 磯野, 1998)<sup>2)</sup>

構音は発達するものであり, その音韻によって完成時期が異なる. 4歳児 (保育園年中) ではほぼすべての音の完成をみる.

## 6. 治療機関

明倫短期大学ことばクリニックや新潟大学医歯学総合病院歯科言語治療室など言語聴覚士がいる病院・診療所のほかに, 小学校の中に設置されていることばの教室 (正式には, 言語通級指導教室), 福祉施設 (「ことばの相談室」等の名称) があり, そのほかに新潟医療福祉大学小児言語治療室 (仮称) のような研究機関でも治療を受けることができる. ただし, ことばの教室は学齢児に, 福祉施設では幼児に, 対象を限定していることがある.

## 7. おわりに

子どものことばの問題は周囲の大人の誰かが気づき心配し始めたときから始まると言ってよい. 発音の問題は, ひとたびそれが気になり始めると次々と心配が膨らんでいくものである. 構音障害は言語聴覚士による的確な診断と治療によってほぼ完全に治せる言語障害なのであるから, 心配が生じたらただちに専門機関に相談すべきである.

両親は歯科医師や医師, 保健師, 教師等いろいろな職種に相談することがある. 相談を受けた場合に「少し様子をみましょう」との助言は誤りであり, 無責任であることを認識していただきたいものである.

## 参考文献

- 1) 田口恒夫: 言語障害治療学. 32-35 頁, 医学書院, 東京, 1966
- 2) 山本奈津, 磯野信策: 幼児の構音発達に関する調査 - 保育所における 280 名の構音検査結果から. 新潟県聴覚言語障害児教育研究会紀要, 11: 50-55, 1997